

新基地建設反対名護共同センターニュース

国会請願署名を成功させ民意を実現しよう！

10年前の1月28日、翁長雄志那覇市長を先頭に県内全41市町村長らが結集し、オスプレイの配備撤回と普天間基地の県内移設断念を求める「建白書」を第2次安倍内閣に提出しました。オール沖縄会議は28日、県民広場で「民意実現求める沖縄県民集会」を開催、約500人が参加しました。集会では辺野古新基地建設や南西諸島の軍備強化を止めるために粘り強く抗議していく方針を確認しました。

玉城デニー知事がメッセージを寄せ、「辺野古反対の強い意思がある限り、県内移設は絶対に実現しない。まじゆん、ちばらなやーさい（一緒に頑張ろう）まきていないびらんどー（負けてはいけませんよ）」と呼びかけました。集会には家族連れや若い人も多く参加しました。

また、前日の27日には、「建白書」10年に当たり東京日比谷で「止めよう！辺野古埋め立て」国会包囲行動実行委員会と呼びかけで集会が開かれ800人が参加しました。「オール沖縄会議」の福本勇司事務局長などが訴えました。



新基地建設反対を訴えガンバロウで氣勢を上げる参加者（写真提供・しんぶん赤旗）

「オール沖縄」が提出した建白書から10年

陸自弾薬庫建設など戦争準備は許さない！ 寒風の中 沖縄市で200人が抗議の市民集会



陸上自衛隊の沖縄訓練場内に補給拠点を設置する計画と米軍嘉手納弾薬庫の共同使用を巡って、自衛隊弾薬庫建設反対沖縄市実行委員会は25日、沖縄市内で抗議の市民集会を開催、寒風の中約200人が参加しました。第4次嘉手納訴訟原告団長の新川秀清元沖縄市長が「軍隊は住民を守らない。子や孫たちのためにも戦争する準備を許してはならない」と挨拶しました。

平和こそ商売繁栄の道

沖縄民主商工会の山川陸事務局長（写真中央）は「平和こそ商売繁栄の道。沖縄市に新たな補給基地の計画は、戦争準備であり到底見過ごせない」と訴えました。

「ミサイルから命を守るうるま市民の会」の照屋寛之共同代表が連帯の挨拶を行いました。日本共産党の前宮美津子市議が、桑江朝千代沖縄市長に弾薬庫建設を容認しないよう求める要請決議を提案、採択されました。

退任のご挨拶

新基地建設反対名護共同センター
事務局長 早坂義郎

日ごろから当共同センターへのご支援・ご協力に感謝申し上げます。さて、私事で恐縮ですが、このところ体調がすぐれないため最近、沖縄県立北部病院で精密検査を受けました。その結果、現状では現在の活動を継続することは困難と判断せざるを得ないほど健康が悪化していることが判明いたしました。

このため、突然で申し訳ありませんが1月末をもって当共同センターのスタッフの仕事から退任させていただくことといたしました。共同センターのスタッフとなって8年になる中でとても残念です。共同センターの活動をこれまで支えていただいた全国の方には心よりお礼を申し上げます。

今後、小生は千葉県の家族のもとに帰り、可能な限りゆっくりと充実した余生を送りたいと考えております。長い間のご協力、ご支援に心から感謝申し上げます。また、実にたくさんの方から心温まる激励とねぎらいのメール、電話など頂きありがとうございました。皆さんの励ましを糧に闘病生活を頑張る覚悟です。

「お疲れさまでした」早坂氏囲み食事会



センターの具志堅徹共同代表などスタッフや吉居俊平名護市議、仲本興真名護民商会長など10人が参加。早坂氏がこの間の経過を説明し、今後は千葉に帰って療養に専念することとしたことを報告。参加者からこの間の早坂氏の活動への敬意と感謝の言葉が交わされました。（写真前列中央が早坂氏、その右が具志堅氏）

具志堅徹共同代表ら
スタッフなど事務局長の送別会
名護共同センターの早坂義郎事務局長が健康上の理由で退任することを受けて有志が29日、早坂氏を囲み食事会を行いました。